midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

January 2015 No.388-389

１月号の１枚：枝打ちに取り組む中学生

「緑のダム・北相模」の若者たち（２）

このような若者たちが当会会員の7割を占めている

先月号は、小学生・中学生の活躍ぶりを報告した。今月は、高校生・大学生の活躍を紹介する。

二つの高校（東海大付属望星高、同高輪台高）の活躍は驚嘆する。
望星は５年前、崩落急斜面に根の張る「トチノキ」を植えた。それを見事な「トチノキ林」に育て上げている。
高輪台校は文科省の「ＳＳＨ：スーパーサイエンスハイスクール指定校」として当会の森林にも参加して理論検証を確実にこなしている。

大学生の「学生連合ForestNova」は、麻布大学が核となり千葉大、東農大等の学生が協力して、今年も「全国選抜エココンテスト50校」に参加した。予選を勝ち抜いたものの優勝を逃した。某審査員の評価は、「当然、優勝に値する見事な内容・プレゼンだったが常連参加の期待が大きかったが故に、新たな挑戦に欠けたのが優勝を逃した理由」との事。
それはそれとして、毎回の森林現場での真剣な取り組み態度は、私達年配会員をして畏敬の念を感じさせてくれる。例えば、12月の寒空の下、森の現場での活動終礼後は「振り返り」と称する今日の活動の再点検と次なる目標打合せも暗くなっても納得の行くまで確認し合っている。これを夏も冬も一度も欠かしたことがない。

このような若者たちが当会会員の7割を占めている。地球の人間社会は混乱の渦中にあるが当会の若者たちこそ次世代を担う指導者として育っている。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.01

１月の小原本陣の森の活動は、森のしきたりにより行いません。

1月18日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

12月7日（第一日曜日）

寒さもひとしお身にしみるころ、12月の小原定例活動は、緑のダムの方と、角田さんの紹介でインドネシアから活動に来たディアさん 、林業経験者の女性の方と共に、孫山のハイキングコースの調査を行いました。

このハイキングコースは、途中までは獣道みたいな道が続き、獣道でもわかりやすいコースなのですが、しばらくすると道なき道へ誘われてしまい、何度も登ったベテランの方も迷ってしまうような道なのです。

過去に2回登ったのですが、2回とも迷ってしまっています。そして今回は、前回までの反省を活かし、いつもの登山口とは逆から登ることにしたのですが、その入口から探す羽目になってしまいました。

そこで、前回登った際に取ったGPSのデータが大活躍しました。GPSのデータを頼りに入口を見つけ、無事登り始めることができました。上を目指して登るときは、道もわかりやすいので、順調に登ることが出来ました。山頂でお昼ご飯と、登りきれた達成感を噛みしめた後、来た道を折り返しました。しかし、この日一番の問題に直面しました。同じ道でも、下りの時と、登りの時では表情ががらりと変わり、来た道がとてもわかりづらくなってしまったのです。登りでは見えたはずの道も、上から下に見下ろすと、道が茂みに隠れてしまうので見えなくなってしまうからです。ですが、ここでも過去の経験とデータが活きます。GPSのデータを頼りにしないとわからない所だらけでしたが、無事に降り立つ事ができました。

今後は、今回と過去に取ったデータを利用して、コースを地図上で明らかにした後、道標を立てる場所、記す内容・方向、材料などを決め、道標を立ててよりわかりやすいハイキングコースにしていきます。

なぜ、ハイキングコースの調査を行っているのかというと、このハイキングコースは、登山者の方がよく登っていて、活動中でも一般の登山者の方とすれ違うことが多々あります。ですが、前述したように道に迷いやすい、危ないところがあるなど、沢山の人に登ってくれるようなコースにはまだ遠いのです。私たちは、このハイキングコースを整備し、より多くの人が孫山を登ってくれるように調査をして、整備していこうと思っています。

ForestNova☆は、これからも小原の山へ入り続けていき、森を良くしていきます。

山田　和彦（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

12月21日（第三日曜日）

今年を締めくくる師走の活動日。ではあるが、参加はいつもより少なめの４４名。フォレスト・ノバのメンバーの多くが学生対象の環境イベントであるエコ・コンテストに出場していることがその大きな理由。前日がエコ・コンの予選であり、今日、メンバーが揃っていた場合は予選落ちということになる。ノバの参加わずか３名ということはめでたく本選出場したことの証ではあるが、寂しいような嬉しいような何となく複雑な気分である。

さて、本日は東京学芸大の大学院生５名が樋口先生とともに嵐山にやってきた。彼らはふだん環境保全を中心に学んでいるが、教室内の勉学だけではなく植生調査の手伝い、間伐などの実地を体験させてあげたいというのが樋口先生の考え。午前中はノバ・治田君の案内で嵐山の森林散策、午後に予定している間伐についての説明などを受けている。その間、お花畑班は栗の落ち葉をカブトムシ牧場へ集め、米糠を投入。これには乳酸発酵を促す狙いがある。来年もたくさんのカブトムシが生まれますように。森林整備班は先月に引き続き木道を使っての間伐材降ろしを行っている模様。

午後、MOMA工房付近では材の仮置き場建設に使う柱のほぞ穴づくりと墨付けが進行中。ニューヨーク出身のアロンさんが加わっている。アロンさんは建築学を学んでいるのだが、ここ数年は日本で修行の旅をしているとのこと。梁用の太い材を相手にひたすらほぞ穴づくりに取り組んでいる。作業をするなかで様々イメージが湧きあがり、日本の伝統工法に瞑想的なものを感じとったという。建築家ならではの感性だろうか。

学芸大は予定通りスギ１本を伐倒。森林整備班は１０本ほどの材降ろしを完了。高井戸中は丸一日、総勢１５名ほどで枝打ちを行った。何と一人一本ぶんの作業をこなした由。これにはサポートについたベテランの面々も感心することしきり。中学生パワー、恐るべし。

終礼後には石村夫人からお汁粉が振る舞われた。恒例の催しではあるが、有り難い。陽が陰り、冷えた身体には何よりのご馳走。皆の心もさぞかし温まったことだろう。

帰途、お花畑班が基地から山の神様までの積もる落ち葉をきれいに清掃してくれた道を降りる。神様の前で手を合わせ、この一年の無事を感謝。来年も実り多き年となりますように。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
カブトムシ
プロジェクトより

数年前、嵐山でカブトムシの幼虫を発見したのは、全くの偶然の結果でした。嵐山でも成虫を見る事は出来ても、幼虫はなかなか見つけられるものではありません。

山に入るメインのコース（ForestNovaの森に向かう）に、ダムの流木を粉砕したチップを軽トラに２～３台分敷き詰め、残りをブルーシートに包んで置きました。

放置したままのシートを片づけしていたときに、蛹状態のカブトムシが沢山いることがわかりあわててそーとそのまましてやりました。多分沢山の成虫になって飛び立ったことでしょう。

さっそくトイレ前に丸太づくりの木枠を作り、落ち葉をぎっちり詰め込みました。翌年に見事に沢山の幼虫が生まれて、桂北小学校の皆さんに採りに来てもらいました。

次の年からは、落ち葉ひろいも小学生にお願いして、落ち葉プールも楽しんでもらいました。

その後も桂北小学校の皆さんには毎年１００匹ほど、ホームステイをしていただいています。

更に木枠を丸太から２寸厚の製材した板に変えて、２ヶ所増やし落ち葉詰めは「お花畑班」のご支援を得て、小学校の先生たちも参加するカブトムシプロジェクトをスタートしました。

現在抱える問題は、幼虫の餌が成虫になるまで持たないことです。餌が少なくなると幼虫の数も少なくなります。落ち葉の時期にもっともっと集積しておき、補充をする必要があります。

森の大切な資源である落ち葉を、何とか商品化出来ないかが大きな課題です。生き物を商品にするのは残酷で不安定です。幼虫が作ってくれる「カブトムシ堆肥」はぜひ商品化したいと考えています。

斎藤　憲弘（本会、理事）

[報告２]
さがみはら地球温暖化防止フォーラム

本格的な冬の到来を向かえ、寒さも一段と厳しくなってまいりました。私たちForestNova☆は、12月6日に開催された「さがみはら地球温暖化防止フォーラム」にて、活動発表を行いました。本フォーラムは「さがみはら地球温暖化対策協議会」主催で行われ、相模原地域で取り組む温暖化対策について考え、温暖化防止活動の促進を図ることを目的としています。

まず初めに、気象キャスターとして有名な天達武史（あまたつたけし）氏による特別講演が行われました。天気予報のエピソードを交えつつ、地球温暖化による環境への影響、またその対策を私たちにわかりやすく解説してくれました。日常生活で地球温暖化という言葉を耳にすると、世界規模の大きな問題だと構えてしまいますが、地球温暖化が私たちの生活や活動に密接に繋がっていることが分かりました。また、地球温暖化の観点から見た森林保全の大切さも説いていただき、森林を軸とする私たちも共感することが多々見受けられました。

その後、「若者が取り組み地球温暖化防止活動」と題され、地元の高校である上鶴間高校、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会（ecocon）、ForestNova☆の例発表を行いました。ForestNova☆は背伸びをすることなく、等身大の自分たちを伝えるつもりで発表しました。10分という限られた時間の中では、全てを伝えきることはできませんでしたが、私達が一番大切にしている森への思い、そして日ごろお世話になっている皆様への感謝の気持ちを伝えることは出来たのではないかと思います。

発表をし終えた後は、地球温暖化をテーマに三団体でディスカッションを行いました。質問は温暖化のみにとらわれず、日ごろの活動の意味や今後の展望等にも飛び火していき、熱い主張が続いていきます。普段活動を共に行う大学生はもちろん、高校生の意見を聞くことができ、今後の活動への意欲も湧いてきます。私たちの活動も大学生だけでなく、高校生にも目を向けていきたいものです。

ForestNova☆は現場主義をモットーに活動を続けています。しかし、森林を広範囲かつ多角的に保全していくためには、より多くの知識、経験、そして人の力が必要になっていきます。そのためにも、私たちの活動を紹介できる場を見つけ、積極的に森林保全の大切さを発信し続けていきたいと思います。

浅野　雅樹（Forest Nova）

[連載]

緑のダム、リレーエッセイ

「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

森のお花畑から「おもてなし」の花園へ

さがみ湖・嵐山の森に関わって１５年。森の入口にある５００坪程の所でお花畑をつくり、森を訪れる人が癒される「おもてなし」の花園を目指してはいるが、５００坪の広さと月１回の活動では描いている理想にはなかなか追いつかないのが現状である。仲間は井伊直充さん、石原邦雄さん、碓氷敬さん、岡田陽一さん等７０歳前半の精鋭たちと紅１点瀧澤道子さんだ。お花畑班というと、優しく聞こえるが、５００坪の手入れは土を運び、道をつくり、草刈りをし、樹木を剪定し、生垣をつくり、バラのアーチ等もつくり、仕事は多岐にわたり土木的な重労働が多い。みんなプロではないが、腰を労わりつつ我流で知的に仲良く楽しんでいる。２００２年に始めた当初はドコモの鉄塔と梅林があるだけ。友人の清水さん（造園業）を誘い、彼の援助で機材や材料を調達し、土壌改良から始め、大谷石のテラス、せせらぎに見立てた流れや木橋等も設えた。嵐山のマユミ、オオシマザクラ、カエデ、他などを移植し、ウグイスカグラ、ハナイカダなど出来るだけ自生種に拘った里山の花畑を目指した。頼りの清水さんも去って８年程になるが今の仲間たちと頑張っている。私たちが夢見る花園は、棚田風花壇、ハーブ園、バラの園、棚田風野草園、せせらぎ風流れ、菜の花畑、大谷石テラス、モッコウバラアーチ、梅園、ベリー園、果樹園、等盛り沢山のゾーニングが計画されている。地元の方達の散策路、森の活動する仲間への「おもてなし」と癒しになればと７０代の頼もしき仲間たちと頑張っている。この夢を共有し我こそはと思う方ぜひ花畑班に来たれ。

丸茂　喬（本会、理事）

【事務局からお知らせ】

１月の小原本陣の森定例活動について

１月の小原本陣の森は「森のしきたり」により定例活動を行いません。このいわれには諸説ありますが、お正月に山の神様を迎え入れる前に、つま山の神様が不在のときに山仕事をしない、という風習があるようです。よって、本会でも、第１日曜日の定例活動は行わず、第３日曜日の相模湖嵐山の森の定例活動日に、参加者全員で山の神様に一年の作業の安全を祈ることとしています。

連載２「相模湖・若者の森づくりから」について

連載２「相模湖・若者の森づくりから」は紙面スペースの関係から、今月号はお休みいたします。来月号にご期待ください。この企画はForest Nova、東海大望星高校、高井戸中学校とその卒業生の輪番で森づくりに参加する若者の思いをつなげていく連載です。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、一日も休まず“継続は力”。）

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版